

やま サル山のエンリッチメント

どんなエンリッチメントがおこなわれているのでしょうか。

たとえば

- ・大きな木や木の枝を入れる ・木の箱や木の筒などのフィーダーを置く
- ・チェーン、うんてい、ブランコ、すべり台、ボールなどの遊具を置く
- ・エサを隠す などなど

見つけたエンリッチメント用具をニホンザルはどのように使っているのでしょうか。

たとえば

- ・大きな木...上り下りしたり、座ったりしている
- ・木の枝...かじって皮をはいたりしている
- ・フィーダー(木の箱)...転がしたり、手を入れようとしていたりしている
- ・フィーダー(木の筒)...振ったり、下の部分を指で押したりしている
- ・チェーンやロープ...ぶら下がったり、ゆらして音を出したり、上り下りに使ったりしている
- ・うんてい...上に乗っていたりしている



見つけたエンリッチメントは、どんな目的で入っているのでしょうか。

展示場を少しでも森のように使ってもらうため

ニホンザルたちは、森の中では木の枝をゆすって、遊んだり気持ちを伝えたりします。葉や実を食べるために木に登ったり、枝から枝へ飛び移ったりもします。展示場でも、チェーンや大きな木を入れることで、少しでも野生に近い行動ができるようになります。それは動物園で暮らす野生動物にとって、とても大切なことです。

食べる時間を長くして、暇な時間を減らすため

野生のニホンザルたちは、一日のうちの長い時間をエサを捜したり食べたりすることに使っています。しかし、動物園では決められた時間に一度にエサをもらうため、暇な時間が長くなってしまいます。このため、木の枝やエサを取るまでに時間のかかるフィーダーを入れたり、エサを隠したりして食べる時間を長くしています。